

東海道も安心しては旅行できない。

ともあれこうした国土とその開発計画とが あきらめとか まあ起こったらそのときだというような 自然のことわりを軽視し あるいは無視したようなかたちで押し進められていくことに 地盤の複雑 変動の多いお国から 私たちはおおきな矛盾を感じざるをえないのである。 路線の決定が国会で討論され 国の経済・社会の機構のゆるす限り しかも国民のなっとくのいくところ

まで論じられるようなふんいき そうなってはじめて国も国民もようやくにして 科学的だといえることができるのであり 同時に平和への祈念も真の意味で深められるに違いない。 それにしても こうした矛盾がとく別多い私たちの専門の分野に 卒直に発言でき 広く社会に問うだけの機会が不じゅうぶんだということは 口を大きくしていてもよさそうに思う。

(今回は「間違いだらけ」 筆名は 地質部長)

地学と切手



大沼国定公園 堀内 恵彦

本州から青函連絡船で津軽海峡を北海道に渡り 函館本線に乗車して渡島半島を北上すると 一時間で 軍川駅に到着します。 この軍川駅を中心として公園地区北部に特異の山容をみせる駒ヶ岳と その火山活動によって作られた堰止湖の大沼小沼および蕁菜沼を地域に含む約94.96km<sup>2</sup>の地域が大沼国定公園です。 その中でもとくに三つの湖の出入りのはげしい湖岸線と 溶岩泥の突起によって作られた湖中に散在する 大小多数の小島が作りだす情緒は 北海道には珍しく 内地(北海道の人々は本州をこう呼ぶ)的な風景を形成しています。

大沼は 公園のほぼ中央部に 東西に細長く 4.9 km幅 2 kmの広さで位置しており 三湖のうちで最も大きく 大小81の小島が散在しており 西岸は狭戸(せばと)と呼ばれる地狭部で小沼と分けられており この狭戸上を函館本線の下り線がはしっております。 この狭戸付近がこの公園中で最も風景のよい地域です。

小沼は 前述した狭戸の西に 大沼と対して広がる南北 3 km 東西 2 km 余の湖で 大小31の小島が湖中に散在します。

蕁菜(じゅんさい)沼は 小沼の西北 日暮山の裏にあって 14の小島が点在します。 湖から蕁菜が採れるのでこの名前があります。

駒ヶ岳 大沼の北方にそびえる標高1,400のコーンデ式活火山ですが 度重なる爆発で形が変わり 現在のような特異な山容となったものです。 大沼の方向から この山を見ると あたかも天馬が駆けているように見えるところからこの名前が付けられたものです。 北方噴火湾の方向からながめると 美しい富士型の山容であるので渡島富士とも呼ばれます。

この地区は 函館に近く交通の便のよいことと 施設が比較的良好に整っていることから 多数の人々に四季を通じてよく利用されております。

公園指定は 昭和33年7月1日 切手印画は大沼付近からながめた駒ヶ岳風景で グラビア4色刷 昭和36年9月15日の発行です。

(筆者は元所員 現科学技術情報センター)

